

平成 30 年学校関係者評価項目における課題と分析

1. 教育理念・教育目的

課題：設置主体が弘前市医師会であるため「地域医療の貢献」等が理念に明示されていない。また、教育目的も社会的ニーズを踏まえた内容とするよう検討が必要である。

対策：弘前市医師会として地域医療への貢献という内容を、現在はアドミッションポリシーに盛り込んでいる。2022 年にカリキュラム改正の予定であり、改正時に教育理念・教育目的に明確に盛り込みたい。

2. 教育目標

課題：今回は特になし

3. 教育課程経営

課題：臨地実習における事故報告について、指導者の分析結果がないもしくは不明である。

対策：実習要項には、報告と対応しか記載していないため、次年度からは事故分析と分析結果の共有についてまでを明記する。

実際には、事故報告書をもとに、実習指導教員と学生でカンファレンス等を通して分析と振り返りを行っている。報告後の流れも明確に記載するとともに、カンファレンス記録等には、指導者の分析やコメントを残したい。

4. 教授・学習・評価過程

課題：1) シラバスを学生目線で検討する必要がある。

2) 図書室・情報処理室の利用案内の内容が統一されていない。

3) 学生・生徒に対し効果的な教育・指導を行うための教員間の協力体制について明確にされていない。

4) 授業評価の結果がどのように授業改善に反映しているかあいまいである。

5) 多様な評価について明確にされていない。また、教員の行う評価が学生の学習支援につながっているかがわからない。

対策：1) シラバスの様式の見直しを行う。

2) 図書室・情報処理室の利用案内について両学科で検討する。(次年度の便覧作成に間に合わせる)

3) 分掌以外に、演習・実習などの分野でプロジェクトチームを作って、教員が協力して教育・学生指導を行っているが、明示していなかった。分掌の一覧の他にそれぞれの学科のプロジェクトチームの一覧を作成するとともに、学科内で

の連携と情報共有について明確にしたい。

4) ～5) について

- ①専任教員が行っている科目についてシラバス・授業案の開示と検討を定期的に行い、授業改善と共有につなげる。
- ②とくに形成評価について、シラバスでも明示するようにする。
- ③ルーブリック評価を取り入れ学生の成長を客観的に評価し、共有できる仕組みを作っていく。特に「看護技術」「臨地実習」で実施する。

5. 経営・管理過程

課題：管理運営方針および長期・中期計画が明示されていない。

対策：管理運営方針並びに長期計画は、今後の看護師供給・需給の状況を考慮し、今後1年で立案していく。

6. 入学

課題：教育理念等が受験生に理解されているか不明である。

対策：①7月の高校訪問、通年で行っている要請校への進路ガイダンス・進路相談において、看護学校受験を希望する高校生に伝えている。

②入学試験の面接での質問・入学者説明会など機会をとらえて、教育理念・アドミッションポリシーへの理解を促していく。

7. 卒業・就業・進学

課題：卒業生の活動状況について、卒業時の状況だけでその後の調査を行っていない。

対策：今年度から3年毎に卒業生への調査を行い、卒業後3年間の動向を把握する。
(調査実施可能な範囲、学校運営への要望事項の反映などを考慮し3年とした)

8. 地域社会／国際交流

課題：学校から地域社会への情報発信が十分行われていない。

対策：地域社会への情報発信の機会としては、「市民の健康まつり」で看護学校コーナーとしてブースを設け、学校を紹介している。また、進路ガイダンス・職業紹介や進路相談会にも積極的に参加し、学校紹介と共に看護職について理解を深めてもらう機会としてとらえている。さらに、市立病院の院内研修の講師派遣など要請に応じている。

しかし、大学で行われている公開講座などについてはまだ実績がなく、HPでの情報発信も不十分であると考え。今後、同窓会とも連携し、HP上の情報の発信・地域住民を対象とした企画など考えていきたい。

学校関係者評価者会議における提言

平成 30 年 10 月 28 日に開催された学校関係者評価会議において、次の 2 点について提言とその対策について意見が交わされた。

1. 学校関係者評価項目の見直し

提言：①教務に従事していない学校関係者が資料だけで評価するのは非常に難しい。

②国際交流・留学生の受け入れなど本校にとって不要な項目が入っている。

③教職員・学生・生徒の健康管理に関する視点が抜けている（病院評価では入っている）必要と思われるので、入れた方が良い。

対策：①学校関係者に何を評価してもらうかをよく検討し、評価を受けるべき視点を抽出し、学校関係者評価表を作成する。

②学内の自己評価表も見直し、本校にとって必要な項目の追加と不要もしくは現実に則さない項目を除いた評価表を作成する。

2. 学校関係者評価会議のあり方

提言：①大学では、中期計画に対し中期目標があり、その達成度評価を行っている。

学校関係者評価でも、達成度評価の妥当性を評価してもらい、学校が目標としている課題に対する意見をもらう機会にしてみてもどうか。

②高校では学校評議会として外部から見た高校の評価・意見や学内外のアンケート結果などについての意見を出してもらっている。

③課題分析などの資料でうわべの言葉を飾ったり、学校関係者評価会議を開催したという単なる実績づくりでは意味がないと思う。中身の伴うものにして欲しい。

対策：①学校としての中期目標とそれを達成する中期計画を立て、3年後には中期目標に対する達成度について客観的に評価を受ける機会としたい。

②学校関係者評価でいただいた提言に対し、学校側でどのように取り組み、その成果についてもしっかりと報告していく。